

預金保険を巡る国際的な動き

—三國谷預金保険機構理事長の国際預金保険協会 (IADI) 会長への就任について—

預金保険機構 国際統括室長 **佐藤 宣之**

1 国際預金保険協会 (IADI) の概要

国際預金保険協会 (IADI:「アイアディ」と発音するのが一般的) は、①預金保険分野における国際協力の推進や預金保険制度のガイダンスの提供により金融システムの安定に貢献すること、②預金保険機関、その他関係機関の国際交流を広げていくことを目的として平成14年5月に設立され、我が国預金保険機構も設立当初より加盟した。IADIはスイス法に基づいて設立された非営利団体で、IADI事務局はスイス・バーゼルの国際決済銀行 (BIS) にある。加盟機関数は現在までに100を超えた。

金融危機を経て、セーフティーネットとしての預金保険の分野における国際協力の必要性が高まっている。当機構はIADIの活動に積極的に参画し、我が国の預金保険制度の拡充・強化の参考とするための国際動向の把握に努めるとともに、我が国の預金保険制度等を紹介することにより国際的な認知度向上に努め他の加盟機関との相互理解を深めてきた。

例えば、国際的に合意された預金保険制度の基本原則として平成21年6月にIADIとバーゼル銀行監督委員会と共同で作成・公表した「実効的な預金保険制度のためのコアとなる諸原則 (コア・プリンシプル)」の改訂作業についても当機構は積極的に参画し、以て平成26年11月にはIADIが主体となって改訂版コア・プリンシプルを作成・公表するに至っている。

2 三國谷預金保険機構理事長のIADI会長への就任

去る10月12日午後 (現地時間) にカナダ・ケベックシティで開催されたIADIの年次総会において、当機構の三國谷勝範理事長がIADI会長に選出され、即日就任した (我が国以外の立候補はなく、信任投票により満場一致で選出)。IADI会長は、対外的にIADIを代表する他、IADIの実質的意思決定機関である業務執行委員会の議長も兼任することとなる。

当機構は、担当理事がIADI設立当初の平成14年5月より業務執行委員会の委員およびアジア太平洋地域委員会の議長を務めるなど、IADIの活動に積極的に参画してきた。三國谷理事長は5代目のIADI会長となるが、IADI会長がアジア地域から選出されるのは今回が初めてとなる。

IADI会長を担ぐ当機構としては、IADIでの経験、また我が国における破たん処理等の経験も活かして、個々のメンバー・地域の多様性を踏まえつつ、丁寧且つ透明な議論を重ねた上で、預金保険分野における国際協力の一層の推進に努めてまいりたい。

(文中意見にわたる部分は筆者の私見である。)

預金保険機構の
ロゴマーク



国際預金保険協会（IADI）の概要 (International Association of Deposit Insurers)

（平成29年10月現在）

SPOT

1. 目的	①預金保険分野における国際協力の推進や預金保険制度のガイダンスの提供により金融システムの安定に貢献すること ②預金保険機関、その他関係機関の国際交流を広げていくこと
2. 設立	平成14年5月（我が国預金保険機構は設立当初より加盟）
3. 加盟機関数	・正会員（Member）：84（預金保険機関等） ・準会員（Associate）：8（中央銀行等） ・パートナー（Partner）：14（国際機関等）
4. 組織	1. IADI会長 正会員たる預金保険機関の代表者から選出。業務執行委員会の議長も兼任。 2. IADI事務局 事務局長以下専任スタッフが常駐。所在地はスイス・バーゼルの国際決済銀行（BIS）内。 歴代IADI会長 ・Jean Pierre Sabourin（カナダ預保総裁（当時））平成14年5月～19年11月 ・Martin J. Gruenberg（米FDIC副総裁（当時）、現米FDIC総裁）平成19年11月～24年10月 ・Jerzy Pruski（ポーランド預金保証基金総裁（当時））平成24年10月～27年10月 ・Thomas M. Hoenig（米FDIC副総裁）平成27年10月～29年10月
5. 業務執行委員会	IADIの実質的意思決定機関で、年3回程度開催（最高意思決定機関は全ての加盟機関からなる年次総会）。現在の定数は、IADI会長が兼務する議長を含め25名。投票権は各委員が1票ずつ保有。我が国預金保険機構の担当理事はIADI設立当初より委員を務めている。 業務執行委員会メンバー：アルゼンチン、カナダ、クロアチア、ハンガリー、インド、インドネシア、イタリア、日本、ケニア、韓国、コンゴ、マレーシア、メキシコ、ナイジェリア、ノルウェー、パレスチナ、ポーランド、ロシア、スイス、台湾、トリニダード・トバゴ、トルコ、英国、米国、ウルグアイ
6. その他委員会	1. カウンシル委員会（4委員会） ①監査・リスク管理、②コア・プリンシプル・リサーチ、③メンバー・リレーション、④トレーニング・技術支援 2. 地域委員会（8委員会） ①アジア・太平洋、②アフリカ、③カリブ、④ヨーロッパ、⑤ユーラシア、⑥ラテンアメリカ、⑦中東・北アフリカ、⑧北米 アジア太平洋地域委員会メンバー：オーストラリア、アゼルバイジャン、バングラデシュ、ブルネイ、香港、インド、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、キルギス、マレーシア、モンゴル、フィリピン、ロシア、シンガポール、台湾、タイ、ベトナム
7. 対外活動の例	1. 「実効的な預金保険制度のためのコア・プリンシプル」をバーゼル銀行監督委員会と共同で作成し、平成21年6月に公表。平成26年11月に金融危機後の状況を反映した改訂版コア・プリンシプルをIADIが主体となって作成し、公表。 2. コア・プリンシプルはIMF・世銀が行う金融セクター評価プログラム（FSAP）において、各国預金保険制度を評価するための基準となっている。

著者紹介

佐藤 宣之（さとう のぶゆき）

昭和40年4月13日東京都杉並区生。昭和63年3月東京大学法学部第一類（私法コース）卒業、同年4月大蔵省（現・財務省）入省。入省後は、ケンブリッジ大学留学（MA in Economics）、名古屋国税局磐田税務署長、在シンガポール日本国大使館二等・一等書記官、OECD事務局（パリ）、金融庁監督局郵便貯金・保険監督総括参事官兼内閣官房国家戦略室参事官、名古屋大学大学院経済学研究科教授、チャタムハウス（英国王立国際問題研究所）客員研究員等を経て、本年7月より現職。平成28年1月より名古屋大学客員教授を兼職。